### 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	リカルドオ略伝附年譜
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.6 (1921. 6) ,p.825(65)- 842(82)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210601-0065

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

### 書考 参 究 研 法商

加藤 市村 富久博士 須賀喜三郎學士 青山、衆司博士 猪股 淇清學士 松本蒸治博士 西本辰之助教授 守尾 元彦教授 正治博士 源 手 保 株式會社本質論 會 PH 商 商 礼 法

險 契 約 論

PA 洪洪 完

諭 完

完

内地送料金 拾 貳 **圓** 內地送料金 拾八 錢定 價 金五圓五拾錢 內地送 料、金 六 錢定 價 金臺園貳拾錢

產

定 質 灸 以 则 为地送料 金 拾 八錢 店 書堂 嚴 松

# 柳川 勝二學士

松本 烝治博士

私

集

全三卷

各定料價

法原理 (網)

完

想

論

完

講

義

完

完

雜 緑

Hollander, 1899

-Letters written by D. R. during

力

才

略傳

of the Life of Mr. Ricardo" in the "Annual

Biography & Obituary for 1824" ~ McCulloch

がその Ricardo 全集の卷頭に載せたる Life and

成れりど想像せらるゝ

(McCulloch) "Account

僅かにその兄弟の筆に

cester, 1891) の外には、

Tour on the Continent, privately printed, Glou-

小

James

Writings of

Mr.

Ricardo

Nexander Bain,

Others 1811-1823. Edited by J. Bonar ころ甚だ尠し。 はその書簡集(Letters to J. B. Say. Oeuvres dive David Ricardo Letters of D. 1816-1823. Edited by J. H. Hollander, 189 1887— R. Malthus 1810-1823. Edited by J. Say 1848, pp. 406-429-Letters of 傳記の資料として據るべきもの の生涯に就ては吾人の知ると to J. R. McCul-

David Ricardo. A Centenary

し書簡集その他の公

omio Outlook 1912, pp. 87-137)页: J. H. Ho-

in Parliament, Economic Journal for June & Sept-

1894, reprinted in E. Cannan,

The Econ-

て彼の、議會中に於ける行動を詳にし(Ricardo

後に至りて Edwin Cannan は

Hansard を精査し

ardo に闘する記事の断片とあるに止まりしが、

Mill, 1882 その他數書中に散見する Ric-

llander は前人の利用せざり

私文書を渉獵して

(八二五)

リカルドオ略傳

六五

schaft und Besteuerung, 1905 の扱鈔に外ならざ K. Diehl, Sozialwissenschaftliche Erläuterungen zu 本編は Hollander, McCulloch, Cannan, Bain 及び の関歴に関して讀むべきものは以上諸書のみ。 謬不精確の或物を 匡すことを 得たり。 Ricardo 系を明にすると共に Estimate 1910 ものなり Ricardo's を著はし、始めて Grundgesetzen der McCulloch 等が記事の誤 Ricardo の家 Volkswirt-

居を伊太利 Livomo に移したる猶太人團中に求 祖先は宗教的迫害の為め西班牙半島を逃れて、 移住歸化せる猶太人なり。更に其家系を遡れば むることを得べし。Amsterdamの Ricardo 本家 に存する記録によれば Livorno に生る。父 Abraham David Ricardo の兄 David Israel は一七七二年四月十九日倫敦 Israel Ricardo は和關よ の 
 Benjamin Ricardo (165 b

> raham Israel eph Amadios を娶り、 Israel は一七二七年 る一七〇二年の頃なりしならんと謂ふ。 避けて和蘭に定住せしは、略は此祖父の生れた rdo 及び Joseph Israel Ricardo を生む。 一女を得たり。 て Ricardo の一族が他の猶太人と共に再び難を 我が經濟學者 David Ricardo の祖父なり。 2-1721)なる者一六九二年同地の Estrela de Jos-即ち經濟學者の父なり。 一七五〇年に生れたる季子 Ab-Hanna Abas を娶り、 11分 Samuel Israel Rica-Joseph 後者は

再び此移動に参加せるものとす。Abraham Israel Ricardo damに於ける猶太商人に打撃を與ふること甚し 倫敦に移すもの相踵げり。Ricardo かば、十八世紀を通じて猶太人の居を和蘭よ 一六六〇年英吉利航海條例の制定は Amster 同時に英人の猶太人を待つと漸く寬大なり が倫敦に來りし年月は明かならざれ の一族は

二を限りて猶太人團に特許せる。仲買人の株の 堅め、一七七三年に至りては、倫敦市参事會が十 years past)大武烈顛國に居住したり」と記せり。 一数多き家族の第三子」として生れたるは此の前 一を譲受くることを得たり。David Ricardo が 彼は勉强節約と天賦の能力と、 此請願に關聯して彼れは「過去數年間(for を得たるとは公文書の記録するところなるが 有力者と共に英國歸化の請願をなし、翌年特許 らんと云ふ。その一七七〇年他の猶太人團中の 晩くも Valle を通じて得たる有力なる縁故をに 間もなく商人及び仲買人としての地步を 一七六四年をの十四歳の時なりしな 及その妻 Abigsome

全然質用を主としたるものにして、<br />
「古典文學は Amsterdamの伯父の許にて授りられたる教育は、 David Ricardo へ八二七) が少時先づ英國に於て、 餘 リカルドカ略像 次で

> 「その少年の頃より抽象的推理の嗜好を示し、彼 **き散漫なる學修に過ぎす。且その家庭内に於け** る氛圍氣は、所謂無利無益なる思辨を阻害する を此に發するものならんと雖も、 族より聞ける、彼の沙翁に對する傾倒は、或は端 の書信には「十二の年より十三まで」同國に在り その部分をなさいりき。し和関に留まると二年、 自然學に對する興味及び後年 Fonteyraud が遺 の學を修むることを許したりと傳へられ、 は David が業務の餘暇教師に就て、好むところ (Ricardo が和蘭に於て教育を受けたる年時に就 に與へたる書簡によれば、 ては疑問あり。Maria Edgeworthが一八二二年人 の時和巓に在りし事を語るも、 けて實務に從事したり。此時以後に於ても、父 と記せり)にして歸國し、十四才の時以後父を して云ふを以て視れば、 Ricardo はその九歳 その大陸巡遊中 固より秩序な その

Register and Obituary for 1824) 斯の如~Davidの 業務上に於て漸く重用せられ、 に二弟(?)を托して和蘭に赴かしめ「毫も懸念を 完全なる責任を帶びて業務に當らしむるに至れ 上の能力は父の信用を博し、彼をして聞もな **券の賣買を主とするに至りしが** 務は漸く商品質買より轉じて、爲替手形、有價證 非ざり るの必要漸く大なるに從ひ、 信賴を贏得たりしは、年十六の時父母は彼れ 彼れの理論家たる に從つて立つるの決意を示し」(McCulloch)た Davidが當時既に成人の風ありて、善く父母 らず、Ricardoが少時受けたる教育は決し し」と云ふに徴して知るべし。(Annual に開 でする凡べての意見をばその心の確 たる興味の主題をその根柢まで究 之より先き父 Ricardo の業 べき傾向を助成するものに 早晩父子の衝突 事務を即決專行 David が財

なく私心なき婦人(Maria Edgeworth の評語)に 幸福」を享くることを得せしめたり。 Priscilla Ann 三年父祖の宗教を守ること嚴格なる父の怒を顧 して 知るも、 Ricardo みずして、途に之と結婚したる為め、父子義絶す るに至りし一事是なり。而して吾人は後年David Wilkinson Esq. の女 Priscilla Ann を変し、一七九 して終り 知るどころは て如何なる相違あり も Ricardo 父子の間に業務上政治上の意見に於 あるべきは或は避難き勢なりしならん。 Ricardo をして善く「純粹無雑なる家庭の 父其人と子とは終に和睦することなく と父の家族との關係親善なりし事實を たるが如し。然れども斯くして獲たる は目輝き態度親切快濶なる、嬌飾 David しかは が一圭哥兒敦徒 Edward 明かならず。 晋人が 然れご

の運命を開拓せざる可からざるに至れり。 父の家を去れる Ricardo は今獨力を以て自家 率に

る莫大なる取引を何等努力の態なく 如何なる事に於ても、その業務に於てせるより き記して曰く致富の才能は多く尊重せられずと 於ける ける Ricardo 傅の筆者は彼れの致富の才能に就 Annual Biography and Obituary for 1824 家を去れる同情すべき事情とは、株式取引所に して株式仲買間に信用ある Ricardo 算に對する彼れの驚く 獨立に就ら憂ふることを須のざるに至れり。 、式仲買人として意想外の成功を博し、數年に どを客しむ事なからしめたり。斯くして彼は て(恐ら~年未だ二十六に達せざるに)經濟上 目に對する彼れの完全なる知識、數字及び せることなかるべし。業務の有ゆる複雑な R氏(Ricardo)は異常なる力量を恐らく 有力人士を動かして、彼の爲に援助と獎 人の貸敬す べき人物性格と及その父の べき敏慧、 その關係せ 處理する能 の家名さ、 に於

を試みて人に示し、 の研究に捧げ、傳ふる所によれば、或は電氣實驗 預言せしめたりと。 す國家に於ける最高地位の或物を占むべき事を るに先だつ事久しく、嘆賞の除り彼れの他日必 聲價に於て、取引所に於ける何人が甞てしたる 所に於ける凡べての同輩を遙かに背後にして、 常に資産上に於てのみならず、 事件の綜合とも相結合して、 力、彼の冷静で判斷では(彼に取つて)好運なる公 物質上の懸念漸く去るに及び Ricardo はその 中の最慧眼なる數人をして、彼れの著名とな の才能が彼等の儕輩に與へたる印象は、 一部を自然科學(數學化學地質學鑛物學) 無限に高く昇ることを得せしめたり。 或は他に先じて其家に燈用 (McCulloch, p. XVII) 彼をして株式取引 一般的名望及び 彼等

を設け、又一八〇八年その前年創立せられたる

へ八二九し リカルドナ略値

地質學協會 Geological Society に入りて會員となれり。然れども是等の自然科學が Ricardo のに先だちてのことのみ。彼れの一度經濟學に及はる、や、自然科學の研究は假令「全然放棄」 提はる、や、自然科學の研究は假令「全然放棄」 なに至りしものゝ如し。

mbton と共に會食す。來客甚だ多く、馳走美事 Annual の手記あり。 り。而して別に此逸話を傳ふるものに Hobhouse を見て、 て Bath に滯在中、 にその妻の病中偶々二日 Bath に在り廻覽書庫 予は Ricardo の隣席に坐せしが、 Obituary 經濟學研究の志を起せり どの 逸話は へてより、 が一七九九年療養の爲め病妻を伴ひ 日く、「三月二日(一八二二年) La-の筆者之を語り、 廣く人の知るさころとなれ 一日偶々 Wealth McCulloch of Nations 彼は予

大陸封鎖、兇作の連續に依て、物價、外國爲替の 十年間は奈翁戰爭、英蘭銀行の不賢明なる政策 に見ゆるまでには猶は十年の歳月經過す。 經濟學に志してより、その最初の述作を以て世 學書の精讀によつて斷然心を經濟學的思辨に傾 壯年にして業務上の功既に遂げたる時、 くるに至れる事を知らば足れり。 對する實際的經驗を觀察力とある 途に此學に對する趣味を養ひ得たるなり」と。 ることを須ゐざるべし。 べき理由なしと雖も、 (1909), vol. (Lord Broughton, かりしと語れり。 たるときまで、 (貸本屋)に於て一 Adam Smith なるものを見る 一二頁を披見して之を家に送る ₽: P 曾て經濟學に思及びたることな 179) 此逸話の異偽は之を疑ふ Recollections of a Long Life 彼れはそれを好むこで遊しく 猶必ずしも深く之を論ず たい吾人は經濟問題に べきてとを命じ 然れども彼が Ricardo が、 一經濟 この

の機會を供したりき。手腕ある投機者の爲めには巨利を博すべき絶好動搖、金紙價の差最も甚だしかりし十年にして、

を質行するの適否を議したるに、皆悉く之を不 にし、「彼にして自家の利益をのみ考ふるときは Vansittart が公債引受開と會見して Grenfell の案 募債を腐めたるに、Ricardo 可となし、千二百萬磅の代りに二千四百萬磅の る(一八一九年五月十三日)一八一四年時の職相 を爲したるとは Pascoe Grenfell が議會に告げた はれたるのみならず、また公共の精神を以て之 は業務を行ふに當つて、啻に忠實正直を以て顯 **公**債引受人の一員たるに至れり。而して に進み途に所謂財界有力者のみを以て組織せる 株式仲買人より、富裕なる英國財界の有力人物 の同業者に同意せざる可からずと雖も、 Ricardo は此期間に於て、單に一個の資力ある 一人のみ意見を異 Ricardo

> へたるの事質を以て之を推すことを得べし。 僅かに千二百萬磅の募債とを初告すべし」と答利益を商量すべしこせば彼は減債基金の適用と

cpherson, I. Mill, Commerce Spence, Britain Independent of Commerce, 1804. Pitt. thus, Public Wealth 1804.— Lord King, することなく持續せられたるものゝ如し。今十 一方 1801.-重なるものを擧ぐ Liverpool, Coins of the Realm, 1805. Foster, Ricardoの經濟學的與味は此間毫も減退 Annals of より凡そ十年間に公刊せられたる經濟 Bank Restriction Brong ham on the Principle of Population 2nd -Thornton, Paper Commercial Exchanges, Defended, 1807.-Commerce, 1805.— William Purnell, Currency in Ireland, Colonial Policy, れば Credit, 1802.—Mal. 1803.—Lauderdale, Boyd, Torrens, Ec-Letters 1804. Ç

卷 八三一 雑 餘 リカルドナ略傳

wer に與へたる書簡の一節に たる喜悦をよく記憶す。」と云へるなり。(Letters 初期の論説の大愛讀者なることを發見して感じ Edinburgh Review に現はれたる經濟學に關する 君も亦予こ同じ Horner 及び後に James Mill の寄稿せる Edinbuof Nationsに次で、是等の書の或物より刺戟を受 sources, 1808 等あり。Ricardo は恐らく Wealth onomists Refuted, 1808.-くることありたるならん。 而して彼が 即ち彼は後に一八一八年一月 Hutches Tro-Trower, pp. 45-6) の愛讀者たりし事に就ては確證あ 〜 Adam Smith の著作及び Chalmers, National Re-「予は予が始めて Francis

Mill は Edinburgh に於ける Dugald Stewart 門の思想並に私的生活の上にも重要なる影響ありの思想並に私的生活の上にも重要なる影響あり

562-3) Bain はその James Mill 傳に於て(七四 る書簡(一八一一年八月十三日)に依れば彼は を通じて、一八一一年に始まると記せるは確證 頁) Mill の Ricardo との相知は、恐らく Bentham なきのみならず、 m° (J. S. Mill, Principles, ed. by Ashley pp. とを相知るに至らしめたる媒介も亦此の書なり を著はしたるに始まる。而して Ricardo と Mill 試みたる議論に答ふ」る"Commerce Defended" の商業は國富の泉源にあらざるとを證明せんと ependent of Commerce を著はし、英吉利國力の 業とせしが、その初めて世の視聴を引くに至り けたるに對して、「Spence ずと主張し、Cobett も亦同應して世の歡迎を受 **真泉源は農業にあり、** 下の一 しは、一八〇七年 William Spence が Britain Ind-て、一八〇二年倫敦に出で、文筆を Ricardo が Bentham に與へた 奈翁の封鎖恐るいに足ら 氏 Cobett 氏並に其他

べくんば McCulloch Morning Chronicleの社主兼主筆 Perry が Ricardo Bentham 八〇九年九月六日とせるは誤謬なり。) 間に中介せるならんかと云ふ (Hollander, p. 44)。 紙上に公表せしめたるまでに、Mill は恐らく其 て、Millを通じて して速かに相知より親愛に進めり。一八〇九年 の通貨問題に關する手稿を見、 題する無署名の寄書の發表せられたる時を以 して同年八月二十九日此の The Price of Gold Ricardo 二者の關係は經濟問題の研究を中心と を通じて Mill を知りたるにあらずし Edited by Hollander 1903 Letters on the Price of Gold " by D. (Letters to の生涯は一新時期に入れるなり。 Bentham を知るに至れるもの が第一の寄書の日附を一 Trower, pp. 1-2) Mill, 切に物めて之を にして信ず

五年%なり)。而して大陸諸國に對する爲替相場 せり。(市價四磅十志は造幣公價より高さこと十 中には一オンス四磅九志四磅十二志の間を上下 上り、一八〇八年の末より急騰して、一九〇九年 英蘭銀行は一七九七年以來銀行券の兌換を停止 換銀行券の増發に基づく、銀行券に對する地金 一八〇六、一八〇七、一八〇八年を通じて四磅に 價は、その造幣公價は三磅十七志十片半なるに、 て標準純度(二十二カラット)の金一オンスの市 せしが。 例の如く信用の膨脹物價の動搖之と相伴へり。 の春以來英吉利經濟界には投機熱旺んに の騰貴、並外國爲替相場の下落是也。一八〇八年 一八〇八年十一月に一七、四六七、一七〇磅なり しもの、翌年五月には一八、六四六、八八〇磅、更 同八月には一九、八一一、三三〇に上り、而し 亦一八〇八年末に近づきてより甚だ英國に 此間絶えずその發券額を増加し來り、 して、

第六號 七三

Ricardo をして其處女作を草せ

しめたるは不

リカルドオ略像

へ八三三

Bank Director たるが、就中 れたる限界内に於てのみ動揺すべき筈なる事を 為替相場は正貨輸送費及び保険料に依て定めら 又本位貨幣の金屬を同ふする二國間に任りては 示したるなり。 幣公價との間に大なる差額を生ずるの理なく、 が發行券免換の義務を負ふ限り、金の市價と造 切の變態現象を不換銀行券の過酸に歸し、 Edwin Cannan 1919 pp. 3-5) Ricardo burg 及び Amsterdam に對する爲替相場は爲替 年年及び一八〇九年初の三ヶ月を通じて Ham-月を通じて益々不利となれり。 不利となり、 Bullion Paper より下るとと十六万至二十%に及びたり。 Pound of 1797-1821. A Reprint of Report. A 一八〇九年及一八一〇年初の三ケ なる匿名氏の攻撃に對して答辨 此寄書は多くの反對論を喚起し Friend to Bank Notes but no With an Introduction by 一八〇九年の後 は是等 銀行

> the Price of Gold p. 5) 友人 Hutches Trower なりき (Three Letters on 告げたり。何ぞ知らん此の匿名氏は Ricardo の 答へ、新聞紙上に於ける應酬は之を以て終結を Notes また之に應じて第二の書を寄せ、之に對 Rの名を以て第二の書を送り、Friend して Ricardo は十一月二十三日第三の書を以て に宛て(To the Editor of the Morning Chronicle) の必要を感じ、Ricardo は更に九月二十日宝筆

議長とする「地金委員會」の任命を見るに至らし 下院議員 Francis Horner を動かして、Horner を めたり。 は一八〇九年十二月一日に作れり。 んとして作られたるものにして、其緒論の日附 題に闘する意見を一層秩序ある形に於て記述せ Proof of Depreciation of Bank Notes は彼の通貨 Ricardo の翌年の著 High Price of Bullion. A 而して同年六月發表せられたるその報 此小冊子は

Companyの理事にして、英蘭銀行の一役員たる 論に 愈々發揮せられたり。Bosanquet は mittee 1811を著はして之を反駁せることに依て Observations on the Report of the Bullion Comervations on the Report of the Bullion Committee て技倆とは Charles Bosanquet の著 Practical Obs-又正貨主義の最も顯著なる職士として其名を知 閉づるものなるが、今や此論争に於て Ricardo は 有力なる質業家にして、 1810 に對して、Reply to Mr Bosanquet's Practical らるうに至れり。 の決議を否決したるときを以て、 子に於て主張するところと同一なりき。 告書を貫ける原理は、大體に於て Ricardoの小冊 議會の調査を促がしたる直接の原因」として、 實際家の爲めに具體的の事實と證 (八三五) 而して彼の名聲と討論家とし 共著は所謂理窟家の結 その第一期を South 所謂地 Sea

> はたい の勝利は「完全無缺」にして Bosanquet の誤謬 **倆を證明する」爲めの用をなしたりと云ふ。** Ricardoはその證據を分析解剖反證し、謂は、敵 據とに基づさて抗議するものなりと称したり。 地に於て敵の武器を以て之を倒したり。Ricardo 「眞理擁護の爲めに現はれたる著者の技

なり。 hus p. 107) 劣る興味を感じたりと云へり。(Letters to Walt-Tooke, Warburton, Sharp, かに Wealth of Nations より得たる興味にのみ に至りぬ。 Thornton, rdoが変友の範圍は漸く廣く、その相往來せる友 人中には Malthus, Bentham, Place, 經濟論家としての名類はるくに連れて Ricardoは既に人口論第一版を讀みて、僅 Sydney Smith, Joseph Hume The 就中特記すべきは Malthus 一八一〇年二月二人は既に相交は Horners, Lord Holland, Tennant Whishaw, Mackintosh, Hobhouse, を数ふる どの変誼 Rica-

リカルドオ略像

鏃

第六號

單獨にRicardoを促がして、類似の著作を公にせ せんとする)の討議は、或は Malthusならも、猶ほ 八十志以上に上らざる限り、外穀の輸入を禁止 しめたるならん。 は、纔かに Ricárdo の死によつて絶たれたり。 worth) 而して二人は屢々その説を異にしたるに も拘らず、その Mill-Ricardo の友誼に次ぐ親交 かを問はずして歡聲を揚げたり」 (Maria Edge-之を發見せるときは、何人が先づ之を發見せし に於ける Ricardo の家は屢々 Malthus を客と して迎へたり。二者は「相携へて眞理を探求し、 Haileybury に於ける Malthus の家庭は屢々 業性情を異にする二人は漸く相許すこと深く、 日付は一八一〇年二月二十五日なり)此素養職 ること切なりしが、(Letters to Malthus 第一信の 一八一三―一四年の穀法案(穀價一クオター 倫敦 Mile End 後に Upper Brook St 然れごも彼が一八一五年世 21 Ħ

b Political Economy and Taxationに至っては固よ りと雖も(Ricardo は the Bank of England 1816 必例 Edinburgh Review 胚胎するものなり。 られたる High Price of Bullion 第四版の附錄に Currency; の作 Proposals of Restricting the Importation of Foreign Corn." は Malthus との通信の直接の産物にして、翌年 and "The Grounds of an Opinion on the Policy に於ける "An Inquiry into the Nature & Progress of Rent;" Remarks on Mr. Malthu's Two Last Publications Inexpediency of Restrictions on Importation: with of Corn on the 出したる Essay on the Influence of a Low Price Mill の勘誘に負ふところ最も大なるものな Malthus with Observations on the Profits of Profits for an Economical and Secure の批評に答へんが爲め草せ Essay 彼れの大作 었 on the Low Price Stock. Principles Shewing the of

McCulloch が Edinburgh Review 紙上に批評文 を掲げ之を讃美してより漸く世に行はれ、一八 俗人に取りては甚だ難解なりしが、 彼をして能くその不得意なる執筆の勞に堪へし to Malthus p. 92) Ricardo の興味を持續せしめ、 んと云ふ。Principles は識者には異端視せられ、 めたるものは Malthus との論爭應酬なりしなら 試みついあり。 て當初より一層詳かにその説明を企てしめんと 我國に於ける幾多の人は予の說を了解せざる事 「予は予の見解を充分詳細に説明せざりし爲め、 つ一八一五年八月十八日附書中の一節に於て、 of Cornを著はすや一部を J. B. Say に贈り、 を Mill 氏より聞知せり。 Ricardo、は就中第三版に重要なる増補訂正を 量の及ばざるところあるを」と云へり。Letters へ八三七) 一八二一年第三版を出すに至れ 然れざも予は恐る此事業の予が 而して氏は予に動め 餘 一八一八年 リカルドカ略像 H.

加へたり。

the Funding System, 1820 は議場に於て彼が反 覆主張せるその課税及び公債に關する意見を說 clopedia Britannica の附録に寄稿せる State of Agriculture)の小数報告とも見るべき もの、Mill 及び Macvey の切望に應じて Encytee on Petitions Complaining of the Distressed On Protection to 外何等の著作なさも、善くRicardoを第一流經濟 認めて彼れの小冊子中最良のものとなし、是以 も参加せる農業窮狀調査委員會 (Select Commit-學者の間に伍せしむべし 員となれるまでの十年間とす。 Chronicle に寄書したるときより、一八一九年議 に於ける述作は、 して書かれたるものなり。 Ricardoの純然たる著作時代は、始めて Morning Agriculture, 1822 15 何れも彼の議員生活と直接關 (XX VIII)、と評せる 即ち McCulloch が 一八一九年以後 Essay on Ricardo

tes on Malthus (Letters to McCulloch p. 84 note; Letters to Malthus p. 172; Letters to the Effects produced by the Resumption of Cash "Speech on the Plan of Voting by Ballot" 全集に收録せられざるものに Speech on Mr. 日及び七月十七日の"Scotsman"に掲げられた 鍬せられたるものに獪は一八二四年四月二十四 of a National Bank は兌換再始條件に關し、英蘭 ざるなり。 銀行の所為に對し加へたる非難の續論に外なら 明せるものい 自家の立脚地を辯護せんが爲めに作れる "Observations motion for a delivered the 22th of June 1822. が
関々
言及
せる
その の手稿に至つては終に傳はらざる 叉遺稿 Plan McCulloch 編纂の「全集」に收 က္ခ Parliamentary Reform" Committee for the Malthus に對 Establishment ï to Consider Trower 而し 及び

なり。

めるものに外ならず。傳ふるところに依れば、此 選出せられて議員となれることも亦「常道」を履 員たることを能めたり。而して Ricardo が一八 邸となし、生活の本據を Gatcomb Parkに定むる 一九年二月二十日愛蘭土の り土地に移し、一八一九年には株式取引所の曾 る地位堅含に至り、一八一四年 Gloucestesshire に至れり。 の必ず履むべき常道なるが如し。Ricardoも亦一 園に郷紳の生活を營むは、成功せる英國實業家 からず。致富の志を遂けたる後土地を買ひて、田 に美麗なる莊地 Gatcomb Park を買ひ、更に翌 万に於て文名顯はれ、 4り移り營みたる Upper Brook 最後に Ricardo の議院生活に就て記せざる 之より先き一八一二一一三年の頃 Mile End 斯くして漸次其の資産を有價證券よ 他方に於て財界有力者た Portarlington St の邸宅を別 より

ども、一八一九年二月二十一日より、一八二三 残れる小敷二百三十七囘中百六十六 年九月十日に至る期間に於て Hansard の記錄に の百七十七欄を充む。採決の記録は不完全なれ 甚だ勤勉なる議員にして、議場に於て發言せる と長短合して百二十六囘、その記錄は Hansard 九月十二日に及べり。 擧區より再選せられ、その病沒せる一八二三年 二世崩御の爲め議會解散せられ、Ricardoは同選 區及び選舉人を見たることなかるべしと云ふ。 **ずにて當選したるものにして、恐らく曾て選舉** にして、此に所有者と云へるは此の質権者を指 或一人の手に存したる所謂 選舉區所有者(Portarlington は代議士指名の實權 選擧區の有權者は十二名なりしが、 Cannan, Economic Outlook pp. 87-8) 新华 George ものなり)に二萬磅を無利子にて貸附け無競 此期間に於て Ricardo は pocket borough o ! Ricardo 囘中 リカルドオ略 には

は議場各方面よりの聲高き呼聲に促がされて漸 Peel が発換再開の決議案を提出するや、Ricardo 彼が 票の制を採用するにあらざれば如何なる議會の 濟問題の範圍内に就て云へば通貨問題に關して 改革を試みることも無効なるべし」と云へり。經 年四月二十三日稍々長き演説を試み「無記名投 無記名投票を採用するの一事にして、一八二三 張したるは投票者の自由意思を尊重する爲め、 囘に其名ありと云ふ。(Cannan, p. 88)彼は自由黨 に議員中の最も自由主義的なる分子と行動を同 には属せざりしも、 Ricardo の喧しき一般的喝釆の裡に坐に復し」たる 一代の權威としてその説の傾聴せられたる 其處ならん。一八一九年五月二十四日 政治上の改革に於て彼の最も熱心に主 の名を發見し、 而して説を述べたる後「院の各方面 一般的政治問題に就ては常 同じく九囘の多數中八

月九日及び二十一日其他)、木綿織物工救濟の目 賃貸決定の機能を與へたる所謂 二年二月十一日)彼は又裁判官に絹織物職人の 的を以て力織機に課税せんとの提議に對しては の廢止に賛成するの發言をなし らん事を希望すとの言明を敢てしたり。へ一八二 指摘し、更に農業家の窮厄は耕地面積を減少せ 説せるは注意すべし。 しむべしと云ふ説に對し、 の如何なるものよりも通貨に就て然る」事を力 す。」之は凡での貨物に就て真なるが る演説中に於て「量は凡ての物の價 一八二二年六月十二日 Western の動議に反對せ きこと説明し、穀物の「引合ふ價格」 remunerapriceを定めんとする企ての不合理なるとを 高き穀價が資本を國外に驅逐す は記録せり。又同問題に就て 穀法問題に就ても亦彼れ 彼は大膽にもその然 (一八二三年五 Spitalfields Acts 値を左右 「恐らく他

> その「社會の大保障たる所有權の神聖を侵害す」 その「社會の大保障たる所有權の神聖を侵害す」 との理由に依て反對し(一八二〇年六月二十九 日)貧家の兒童に無償にて食物及び教育を給せんとする或提案に對しては、その人口を増加せしむるの傾向あるとを理由として反對し(一八一九年五月十七日)Robert Owen の計畫に對してはその經濟學の原則と相容れざる學說の上に築かれたるものにして、彼の見るところを以てすれば社會に無限の害をなすべきものとして反對したり。(一八一九年十二月十六日)彼は勿論有ゆる減稅の案に賛成し、有ゆる增稅に反對すると共に、不合理なる減債基金の制度に反對すると共に、有ゆる減稅の案に賛成し、有ゆる增稅に反對するを主義としたり。是を Ricardo の政治生活のるを主義としたり。是を Ricardo の政治生活のるを主義としたり。是を Ricardo の政治生活の人略とする。

が終に癒えず、九月十二日死す。遺骸は Wiltshire しが九月耳に激痛を感じ、一度稍々輕快なりし一八二三年秋 Ricardo Gatcomb Park に在り

の Chippenham に近さ Hardenhuish Park に葬る。 Ricardo の女 Clutterbuck 夫人の居る處なり。 Ricardo の病狀は Mill が Mc Culloch に與へたる書簡に稍詳かなり (Bain, J. Mill pp. 209-211)而してMillの悲痛は、その人情に切なる一面を示し、Grote夫人をして却てMill 其人を尊敬するに至らしめしと云ふ(Ibid p. 211)。 Ricardoは三男五女あり、その遺産七十萬磅なりしと云ふ。 (Letters to Malthus p. VIII. Note)

## リガルドオ年譜略

「六五二年 曾祖父David Israel Ricardo 伊太利 Livornoに(?)生る。

一六九二年 David Israel Ricardo Estrela de Joseph Amadios を娶る。

『七〇二年 祖父 Joseph Israel Ricardo Amsterdam ヒ虫る。

| 中国O年 | Joseph Israel Ricard Hanna Abas か眠る。| 中国O年 | 父 Abraham Israel Ricardo 生る。

第十五卷 八八四一 雑 録 リカルドカ略回

ーセー年 Abraham Israel Ricardo 英國に移住す。

| 七七二年 | 一十月五日父 Abrahan 仲買人特許を得る

「七七六年 Wealth of Nations 出づ。

一七八一年 和関に在り(?)

一七八三-八五年(?) 和関に於て教育を受く。

一七八六年 父の業に從事す。

一七八八年(?) 二弟を伴ひ和闕に赴く

一七九三年 十二月廿日 Priscilla Ann Wilkinson を娶る。

一十九七年 Malthus 人口論を習はす。

一七九九年 Bath 滯在中始めて Wealth of Nutions を讃

一八〇三年 人口論第二版出づ。

一八〇七年 James Mill Commerce Defended を考す。
Mill さ相知る。

. 一八〇八年 十月 Mill Edinburgh Review 紙上に Thomas Smith の"Money & Exchange"を許す。

「八〇九年 八月廿九日 Morning Chronicle に 'The Price

第六號 八一

一月廿三日)の書を寄す と題して寄むす。 次で第二(九月廿日)第三(十

- 八一〇年 る (六月八日付)。 Committee High Price of Bullion 組織せらる(二月十九日)。同報告書發表せら を習はす。 Bullion
- の決議案下院に於て杏決せらる(五月十五日) 八二年 著はしてBullion Report を許す。Reply to Mr. Besanquet か公にす。High Price of Bullion 第四版を出す。Horner Charles Bosanquet, Practical Observations
- | 八二 | 三年 居を倫敦 Mill End より Upper Brook St
- 八一四年 Gloucestershire Gatcomb Park の莊園を買ふ。 Multhus, Observations on the Corn Laws な著す。 縠法案
- West) "Application of Capital to Land" を潜す。 ro A Fellow of Unniversity College, Oxford (Sir Edward Low Price of Corn"を著す。Gatcomb Park を本邸を Nature & Progress of Rent" 於著す? "Influence of the Malthus "Grounds Opinion" 及び
- 八一六年 "Economical and Secure Currency" 心著下。 始めて書を寄す。
- を著す。 フランドル、 獨逸及

び佛関四を訪ふ。Horner 死す。

- 八八八年 の討議行はる。総選舉行はる(六七月)。 Gloucestershire の Sheriff シなる。 兌換再始
- 八八九年 調査委員に選げる。"Principles" より選出せられて議員となる。兌換再始。 Owen's Scheme Secure Currency"第三版を出す。 株式取引所を退く。二月二十日 Portarlington 第二版を出す。"Econ-
- 八二年 Funding System"を"Encyclopedia Britannica"に寄稿す。 佛関西を訪ふ。総選舉行はれ、 Malthus "Political Economy" 三り。Malthus Political Economy Club 創立せらる 再選せらる。 "Essay on
- 八三年 八二三年 死す。遺産七十萬磅。 Bank " を作る。九月十二日耳崁の爲め Gatcomb Park 巴里に於て J. B. Say, Louis Say, Destutt de Tracy を見る Dumont の歡迎を受け Sismondi の動議に際し演説す(六月廿二日)。家族さ共に大陸に旅行 し、和職に於て詩人 T. da Costa に逢ひ、 の兌換再開の結果を調査せんが爲め委員會設置 McCulloch 始めて Ricardo を見る。 "National O Protection さ經濟問題を論ず。更に Agriculture Genève に於て
- Reform" "Speech on "National Bank" Voting by Ballot" "Parliamentary 發表 せらる。

### プ Jν 社會主義

であるのは勿論であるからである。 は改造の進むに伴れて次第に充たさる可含もの 極めて不公平であるであろう。何となれば詳細 態のものであるかは稍明瞭を缺いて居つて詳細 會主義は單なる架空に過ぎないと批評し去るは には描き出されて居らぬが、併し此放を以て社 外なられ。故に其議論の當否に就きては自分は勿論何等の貴 主義に對する見解の一端を讀者と共に覘かん さしたもの かし 負は の者であるさ 承知せられんとといめる望して 限く。 單に其大體の意味のみを自分の拙き邦文に移し て彼の社會 ismの第七章に就き或る個所は比較的忠實に他の或る個所は **社會主義者の目指して居る社會が如何なる形** 第十五卷 Hartley Withers O The Case for Capital-随つて吾々

ウィザアルの**社會主**義評論便概 らう所の記述にて十分に果されて居る。曰く、社 目的の合理的定義であるこして承り入るゝであ デン氏の「社會主義とサンデイカリズム」なる著 見と、夫より生ず可しと思はるゝ利益とを簡明 せられねばならぬものであるかを語る自家の所 る少し前に、社會主義の目的と、其が何故に ならぬのであるが、幸にして社會主義者中の最 其より生ずる利益が如何なるものなるかを明瞭 て立つ大原則が如何なるものであり而して又た に説いた一冊子を公にした。フィリップ・スノオ は社會主義者から其建設せんとする社會の頼つ 作は即ち是れであるが、此權威は次の如~吾々 も明晰なる思索家の一人が、今次の戰爭の始ま に告げらる」ならば、 語つて居る。「現時の社會主義の目的とする所 個の定式にて記述し得るとせば、 ップレ博士に依り總での社會主義者が己が 其を以て足れりとせねば 其は旣に 採用